



Saica NEWS

Saitama international cooperation action News

2021
Vol.1



2021年度 国際協力事業の実施状況



2021年度、引き続き新型コロナウイルス感染症の収束が見込めず、予定していたほとんどの職員派遣と研修員受入の目途がつかない状況です。

技術協力プロジェクト (MaWaSU2) については長期専門家の派遣が継続されており、任期終了に伴う派遣者の交代が、2021年5月に無事完了しました。

日本とラオス両国においてワクチン接種が進んでおり、今後の渡航再開、現地活動再開に向けてラオス側と調整を進め、リモートでの活動も積極的に検討しています。

また本年度は、2016年12月にラオスの3つの主要水道公社（首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県）と締結した水道分野の協力に関する覚書が5カ年の期限を迎えるため、今後の協力の継続、そして更なる強化発展のため、本覚書をどのような形で更新するのか、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて協議を進めています。

①JICA技術協力プロジェクト (MaWaSU2)

- ・長期専門家派遣 (チーフアドバイザー) ~2021年5月28日 園田主任の派遣終了
2021年5月8日~ 石川主幹 (後任) を派遣
- ・短期専門家派遣 (水質又は土木) (1.5-3ヶ月)
※ラオス入国後、日本帰国後の2週間隔離措置解除後に再開を予定。
- ・研修員受入
※ラオス入国後、日本帰国後の2週間隔離措置解除後に再開を予定。

②JICA草の根技術協力事業

- ・職員派遣 (2-3週間)
※ラオス入国後、日本帰国後の2週間隔離措置解除後に再開を予定。
- ・研修員受入
※ラオス入国後、日本帰国後の2週間隔離措置解除後に再開を予定。



ラオスにおける新型コロナウイルス感染症の状況



ラオスにおける新型コロナウイルス感染症は、2020年3月に感染者第1号が発生して以来、初期段階の厳格なロックダウンと出入国者への水際対策により、2021年3月までは累計の感染者をわずか49人に抑えてきました。しかし、2021年4月のラオス正月（ピーマイ）に、タイから不法入国（帰国）した無症状感染者をきっかけに感染が広がり、同月より2度目のロックダウンに入りました。その後も多くの帰国労働者に感染が認められるなど、不安定な状況が続いています。2021年8月下旬からは再度市中感染が拡大したため、より厳しい内容のロックダウン措置を講じています。(2021年9月末時点の陽性者数24,310人/死亡者数20人)

医療事情の厳しいラオスでは、ワクチン接種を進める一方で、濃厚接触者への徹底したPCR検査、越県移動や会議参加人数の制限等、状況に合わせたロックダウン措置を継続しています。

姓 (Last name)	名 (First name)	年齢 (Age)	性別 (Gender)	住所 (Address)
P. P. P.	P. P. P.	18	男	...

越県移動に必須となった
ワクチンパスポート (2回接種証明)



・第3回JCCの実施と中間評価

JCC (Joint Coordinating Committee)は、1年に1回を目安にプロジェクト活動の成果を関係者間で共有し、活動計画の承認をJICA及びラオス側責任機関(公共事業運輸省)から受ける、技術協力プロジェクトの公的な会議です。第3回目となる今回は、2018年5月から始まったプロジェクト5カ年の折り返し地点にあたるため、中間評価とプロジェクト目標等の見直しが行われました。

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、長期専門家の退避一時帰国(約半年)、短期専門家派遣と研修員受入の中止等、大きな影響がありました。中間時点としては、目標達成に向け概ね順調な進捗となっているものの、一部活動の遅延をカバーするため、事業期間を7ヶ月延長し2023年12月までに変更しました。

・継続中活動の紹介

多くの制約を受ける中、派遣中の長期専門家チームが精力的に活動を進めています。Output2「施設整備実施能力の向上」においては、全国18都県の事業提案・審査により選定された3件のパイロットプロジェクトのうち、北部のポンサリー県、中部のボリカムサイ県において給水拡大の工事を実施中です。

この活動は、小規模でパイロット的な施設整備事業の実践を通じて、適切な事業計画・立案や事業管理(例えば工程管理や工事写真管理など)の能力を高めています。専門家からの指導に加え、ポンサリー県には同じ北部のルアンパバーン県が、ボリカムサイ県には同じ中部の首都ビエンチャンが指導するなど、水道公社間で指導ができる体制の構築も目指しています。



ロックダウンで延期となっていたJCC会議を7月に実施



ポンサリー県における工事管理の改善状況(給水管工事)



・事業期間の延長

草の根事業は2018年6月に開始し、2021年6月まで3年間を予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年目の活動が全くできない状況で期限を迎えてしまったため、残りの活動を実施し事業を完了させるため、活動期間を2023年3月まで延長しました。

・リモート活動の実施

2021年度も引き続き現地活動の見通しが見つからないことから、リモート(オンライン)でのフォローアップ活動を開始しています。1年目2年目で指導・改善したことが継続できているか、マニュアルの作成は進んでいるかなど、ウェブ会議の他、ウェブクラウドやチャットアプリも活用し、進捗確認と指導を実施しています。また、現地に常駐専門家がいますMaWaSU2と連携し、活動成果を他県へ水平展開していくことも検討を進めています。



Zoom(ウェブ会議)を活用したMaWaSU2との連携会議



ラオスの生活と文化① スポーツとオリンピック



ラオスで人気のスポーツといえばサッカーとバドミントン、そしてペタンク（ラオス語発音ではペタン）です。サッカーは若者中心、バドミントンは老若男女問わず、年配の方にはフランス発祥のペタンク（Petanque）が根強い人気を誇ります。ペタンクはパラスポーツのポッチャの基となったフランス発祥の球技です。ラオスではこの3つを中心に日常的にスポーツを楽しんでいる人が非常に多く、家族との時間も何より大切にしていることから、ワークライフバランスを高いレベルで実現している国と言えます。

今夏開催された東京2020オリンピックには、ラオスから柔道(男子60kg級)、陸上(女子100m)、水泳(男子/女子50m自由形)の4名が参加しました。東京2020パラリンピックには、陸上(男子100m視覚障害)に1名が参加しました。ラオスでは、陸上や競泳等において公式記録を測定できる環境が整っていないため、オリンピックの参加標準記録を突破するためには国外の大会に出場する必要があります。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により国際大会が相次いで中止され、多くの選手が挑戦する機会なく出場を断念しなければなりません。そのような状況の中、上記5名の代表選手は、他の選手たちの思いも背負い、オリンピック・パラリンピックに参加しベストを尽くしました。



町中に多く見られるサッカー場（首都ビエンチャン）



水道公社でも定期的に試合を開催（カムアン県）



長年親しまれてきたペタンク（ルアンパバーン県）



ペタンクの手玉と的玉

今後の Saica NEWS について

これまでSaica NEWSは、当局の国際協力事業の取組みについてまず知ってもらい、理解を少しでも深めてもらうことを目的に発行してきました。加えて今後は、事業対象となっているラオスという国についても興味関心を持ってもらえるよう、その生活や文化、魅力に関する記事も少しずつ掲載することにしました。

ラオスは近年観光や企業誘致に力を入れているものの、周辺国と比べるとまだまだ知名度が低く、情報も非常に少ないです。一方で、実際に現地に行くと多くの人が魅了され、再訪者がとても多い国でもあります。

グローバル化の進む中、当局が取り組む技術協力が、皆さんがラオスに限らず海外について知るきっかけのひとつになれば幸いです。



ラオス18都県の位置図
太字の地域が活動の中心となる3都県

